



見附市立見附小学校 学校だより

みしよ

No. 317

令和3年12月24日(金)発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~misho/>

只今成長中！

松井 謙太

二学期が終わりました。子どもたちが元気に登校でき、予定通りに各教育活動が進められました。保護者、地域の皆様のご理解ご協力に衷心より感謝申し上げます。登下校の安全パトロール隊の皆様、クラブ活動指導者の皆様、読み聞かせをはじめとした学校ボランティアの皆様方、そして多くのゲストティーチャーの皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

夏休みを終え二学期が開始した8月27日から、本日12月24日までの登校日数は、82日でありました。その中で子どもたちの成長ぶりには目を見張るものがあります。子どもたちは一つ一つの学習に没頭して取り組み、掛け替えのない時間を過ごし、心身ともに成長してきました。見附小学校の二学期前半のめあては、「目標に向かって挑戦しよう」でした。持久走チャレンジ(マラソン大会)、郷育フェスタ(音楽会+絵画展)、5年の自然教室、6年の陸上練習等々様々な行事を節目に成長しました。一方二学期後半のめあては、「相手の気持ちを考えて行動しよう」でした。クラスごとに、いじめのない学級づくりについて話し合ったり、ちょボラ(ちょっとしたボランティア)運動をしたりしました。落ち着いて学習に取り組み、力をつける時期でした。

ウイルス禍につきましては予断の許さない状況が続いていますが、子どもたちのマスク着用、手洗い等の習慣は定着してきており、ご家庭のご協力により毎朝の検温・健康観察も継続できています。本日の終業式は、体育館に全校児童を集めて行いましたが、これまでの二年間、全ての学校の式典(始業式・終業式・入学式・卒業式)は、密を避けることから全校児童が一堂に会して行うことはできませんでした。今後、感染が拡がることなく、卒業式でも全校児童が式場で一緒に、六年生の門出を祝うことができればと願っています。また、授業参観を含む様々な学校行事への保護者の参加方法についても、一昨年までの形に今後時期をみて戻していきたいと考えています。

さて、成長途上の子どもたちは、失敗を含め様々な経験をしながら逞しく育っていきます。その過程で、思うようにいかず悔しさや恥ずかしさを感じることもあると思いますが、「只今成長中」の人にとって失敗するのは当たり前のことです。失敗すると恰好悪い、よくないことだと思わせることは、子育てで危惧すべきことの一つだと思います。恰好悪さを避けるあまり、何事も本気で取り組まなくなる人がいます。しかし、本気でやった上で失敗することが人生においてとても大切な経験なのです。大人になれば誰もが経験あることですが、人生は必ずどこかで失敗します。100歳まで生きる子どもたちです。失敗は必ず起こることですから、その失敗を乗り越える力を身につけることの方が重要です。

では子どもが失敗した時、大人はどういう行動をとったら良いのでしょうか。それは、他と比較するのではなく、その子らしさを全面的に受け入れることです。肯定されることで自信が生まれます。大人も子どもも、一回きりの人生をぶっつけ本番で生きています。そんな私たちは、自信を失い、諦めるために一回限りの人生を使うことはありません。

冬休みは2週間程ありますが、子どもにとっては長い期間です。大掃除、家庭の行事などを是非経験させてください。そして、この部分が、あの時が、あの姿が……よかったよ、と伝えてあげてください。自信の種となる宝物が子どもの中に貯まっていくことと思います。

「でもしか教育」とSDGs

私が小学生だった半世紀前の学校には、「でもしか先生」という言葉がありました。聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれません。終戦から高度経済成長期に各地で教員が不足し、採用枠が急増しました。「他にやりたい仕事がないから先生[でも]やろう」、あるいは「手に職がないから先生に[しか]なれない」など消極的な動機から教員になった、無気力な教員に対する蔑称が「でもしか先生」でした。ここで話している「でもしか教育」は、若いころ自分が勤務していた学校で、職員室のスローガンとして作り、盛んに使っていた言葉です。「でもしか先生」とは全く意味が異なります。

「全国どこの学校[でも]教えていることは、きっちり児童に教えて学ばせる(どこに行っても恥ずかしくない力をつける)」そして、「この地域の学校で[しか]できない経験をたくさんさせて学ばせる(自分が生まれ育った地域に誇りをもたせる)」、それが「でもしか教育」の意味です。現在の生活科や総合学習が誕生する前、日本中の教師がそれぞれの学校課題に向き



合い、特色あるカリキュラムを求めて試行錯誤していました。その一つの学校で、若手の私も学んでいました。「でもしか教育」は、私が今でも大切にしている考えです。

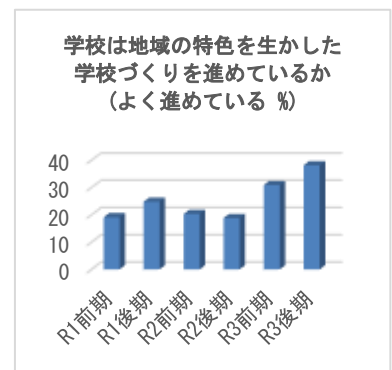
見附小でも、これまで主に教科教育において、地域の自然・文化・歴史・産業などの教材化やカリキュラムの開発研究を進めてきました。中でも戦後まもなく作成された「見附プラン」と呼ばれるカリキュラムは有名です。(12年前ですが、戦後初期コア・カリキュラム研究をされていた横浜国大の金馬国晴教授が、その調査研究のために来校されたことがあります。) 学習指導は大別して、易しいところから難しいところへと順序だてて指導するものと、子どもたちの生活上の問題を解決するための学習を中核として進めるものがありますが、見附プランは後者に当たるものです。

また、13年前のことですが、ESDの推進を目的に、見附小学校はユネスコスクールへの加盟申請を行いました。ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されます。今、世界には気候変動、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。これらの問題解決のために国連は、2030年までの持続可能な開発目標を17に整理して「SDGs」としてまとめました。「SDGs」は、Sustainable Development Goalsの略です。

ESDは、「SDGs」を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う教育活動です。つまり、ESDは教科の系統性に囚われることなく、持続可能な社会の創り手を育む教育なのです。これまでも見附小学校は、栽培活動、防災教育、自然体験活動、各学年の総合学習などを中心にESDに取り組んできています。

見附市共通アンケート(保護者)の「学校は地域の特色を生かした学校づくりを進めていますか」という項目では、「◎よく進めていると思う」と回答された見小の保護者の割合は、グラフのように増加傾向にあります。今後は、発達段階に応じて学習の中で、グローバルな視野に立って考えたり、自分の成長(新しい気付きや変容)について確認したりする活動に一層重みをかけ、より主体的な学習となるよう工夫し、その成果を保護者の皆様と共有していきたいと考えます。

以下、簡単ではありますが、各学年の特色ある教育活動を紹介します。



1年 あそびにいこうよ ～市民の森～

生活科では、季節を感じる活動を大切にしています。春、市民の森に出掛け、きれいな色の花やいろいろな大きさの葉っぱを見つけながら、緑の森を散策しました。秋、春の森との違いを探しに再び市民の森に出掛けました。子どもたちは、大きな落ち葉やどんぐりなどの木の実を夢中になって拾い集めながら、春との違いを感じていました。その後、木の実などの自然物を板に貼り付けて鉛筆立て作りも楽しみました。季節の変化を感じ取り、秋にたっぷり触れることができました。



2年 すてき発見! 町探検

1学期の町探検で気になった施設や店をもっと詳しく調べようと、自分が探検したいお店や施設を決め、グループごとに探検に出かけました。町探検では、ふだん見られないような場所を案内してもらったり、貴重なお話を聞いたりすることができました。学校に戻ると、子どもたちはキラキラした笑顔で様々な発見を報告していました。たくさんの「すてき」を発見し、見附のことが好き、もっと知りたいという思いが高まった活動になりました。



3年 見附商店街PR活動

子どもたちにとって、見附商店街は近くにありながらなかなか足を運ぶことの少ない場所でした。歩いて回り、お店の方と話す中で少しずつ商店街への愛着が高まってきました。商店街の歴史をたどると、店舗数が大幅に減ってきている事実と直面し、子どもたちは切実感をもって動き出しました。商店街のみなさんがお客さん呼び戻そうと企画したイベントを調べたり、お店の魅力を取材したりしたことを全校児童や保護者、地域の皆さんに向けて宣伝してきました。



4年 防災スクールin見附

①大平森林公園でのEポート体験②ロープワーク③救急搬送体験④非常食体験⑤水防学習館での水圧体験⑥防災新聞作りなどの様々な体験活動を行いました。また、地域の皆様から災害への備えや緊急時の対応についての講話をしていただき、「自助・公助・共助」について学びを進めました。子どもたちは、「自分の命は自分で守ること」「安心安全のためにできることを進んでやること」を考えました。ふるさと見附を大切にしていきたい願いを高めた子どもたちです。



5年 米づくりの未来について考えよう！

地域の農家さん、JA いがた南蒲さんのご協力のもと、田植え、稲刈り、脱穀を体験しました。さらに、今年はパケツ稲にも挑戦し、農家さんの苦労や努力、米の有難みなどに気付いた子どもたち。一方、一人当たりの米の消費量が年々減少していることも知りました。その原因の一つは自分たちの食生活の変化にあり、このままでは農家がさらに減少し、簡単に米を手に入れることができなくなるかもしれないという危機感をもちました。地産地消に取り組む企業、米粉を製造する企業など、米の消費量を増やし、農家を守ろうとする地域の方々から話を聞きながら、米づくりの未来を守るため、子どもたちは自分の食生活を見直したり、啓発活動を行ったりしました。



6年 SDGs

にじいる学年は、SDGsについて学習を行いました。一人一人が自分の課題を見つけ、同じ課題を持つ仲間とプロジェクトチームを作り、解決に向けて活動をしました。全21チームが、それぞれの方法で実践しました。ポスター、チラシ、カレンダー、垂れ幕を作成するチーム。放送を使ってクイズを出題するチーム。募金や古着の回収を呼びかけるチーム。イベントを企画するチーム。新たな開発をするチーム。ゴミ拾いを呼びかけるチーム。どのチームも協力して最後まで実践することができました。今回の活動では、チームで同じ目標に向かい協力して準備や計画をすることを学ぶことができました。



見小っ子の活躍

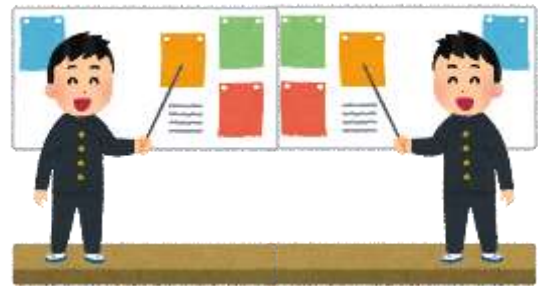
第56回新潟県中越教育美術展
特選 1年
2年

第18回新潟教育アート展
優秀賞 2年

第57回見附市児童生徒科学研究発表会
3年 よく回るコマを作ろう
5年 われないシャボン玉作り パート2
5年 葉の蒸散によってどのくらいの水が得られるか
6年 飛まつはどこまでとぶのかパート2
～手作りマスクの生地の違いによる飛沫の飛び方・疑似ウイルスの吸い込み量・マスク内の温度変化の実験～

第67回青少年読書感想文全国コンクール
優秀賞 3年
4年
奨励賞 6年

こども防災未来会議 2021 防災かべ新聞コンクール
特別賞 準グランプリ ※7名での共同制作。
4年



学校の予定

【1月】

4日(火) 諸費口座振替日
学校閉庁日
7日(金) 始業式
10日(月) 成人の日
11日(火) 発育測定
スクールカウンセラー来校日
12日(水) 発育測定
朝の交通安全指導
13日(木) 発育測定
委員会
18日(火) おとぎの国(2年)
19日(水) 避難訓練
20日(木) 青空集会
25日(火) おとぎの国(3年)
幼保小連絡会
27日(木) NRT 標準学力検査(国語)
音楽集会
委員会
28日(金) NRT 標準学力検査(算数)

【2月】

2日(水) 諸費口座振替日
新一年生入学説明会(保護者のみ)
3日(木) 命と安全の日
全校集会 委員会
9日(水) 鼓笛引継ぎ式
10日(木) 学習参観・懇談会
11日(金) 建国記念の日
14日(月) 学校運営協議会
15日(火) 青空タイム
学習室個別懇談①
16日(水) 学習室個別懇談②
17日(木) 音楽集会 委員会
学習室個別懇談③
18日(金) 学習室個別懇談④
21日(月) 進級・卒業認定会①
22日(火) 進級・卒業認定会②
23日(水) 天皇誕生日
24日(木) 進級・卒業認定会③
青空集会
25日(金) 進級・卒業認定会④
28日(月) 職員会議

